



令和6年度羽田中学校だより

# 天空の橋

令和6年11月19日

目指す生徒像…

Heart

Never Give Up

Do Our Best

大田区立羽田中学校

## 「校則が変えられる学校」への大きな一歩

11月6日の6校時に、生徒総会が行われました。

今年度の生徒総会は、例年とは大きく変わりました。生徒会総務が「羽田中の現状の課題を分析し、どのようにすればよいか」を活動方針案として提案し、全学級で検討した結果をもちより、学校全体で検討する会となったのです。活動方針案を提案するに当たっては、生徒会総務が全生徒にアンケートをとり現状を確認しています。そして、その結果に基づき、よりよい学校をつくっていくための活動を提案しています。

活動方針案の柱は、以下のものです。

(1) 生徒全員が規則を守り、落ち着いた環境を作る

→ アンケートの結果、ルールを守れていない状態が見えたことから。

(2) 生徒会活動に関心をもたせ、生徒の声を中心とした環境をつくる。

→ アンケートの結果、学校行事に意欲的に参加していない生徒がいることが見えたことから。

学級討議では、その提案を読み、現状を踏まえた上で、賛成・反対を検討しています。そして、生徒総会で、すべてのクラスから学級討議の結果が発表されました。「授業中にうるさくなってしまう」などの学級・学年の状態も報告され、それを前向きに直していきたいという意見も多くありました。結果としては全部のクラスが賛成。最終的な決議でも、活動方針案への賛成が圧倒的多数で方針案は承認されました。今回の生徒総会の意義はとても大きなものです。「授業をきちんと受ける」「迷惑をかけるべきではない」「ルールを守ることで自由を広げたい」「ルールを守らないと自由がむしろ広がらない」という意見が、学校の生徒全体の公論（公の論）となったのです。

「授業中私語をして何が悪いの?」と言い張ることは難しくなったのです。実は、それ以上に大きなことがあります。それは、「生徒の集団の課題を生徒自身が検討しそれを改善していく取組が行われた」ということです。

私は、4月当初から今年度の目標として生徒に「校則が変えられる学校にしたい」と話してきました。その大きな一歩が動き出したのだと思っています。「校則が変えられる学校にしたい」と話していても、今までどのようになつたら「校則が変えられる」のかは、あまり詳しく話をしていませんでした。例えば、「現在のルールがきちんと（完璧に）守れていなければ、生徒が校則を変

えることを言い出すなんてとんでもない」とは私は思っていません。学校の中では、いろいろな事情からルールが守れない人は出てきてしまいます。そのときに、「今守れていないのだから、ルールを決めても守れないだろう。だから全員が守れるようにしなければいけない」とまで言ってしまうと、守っている人が損をしてしまいます。守れない人によって、社会の動きが停滞してしまうわけです。

大人の社会でも同じです。法律（ルール）をつくっても守らない人は、現実的にはいます。しかし、日本のような安定した社会では、法律（ルール）を守らない人を、社会の中で何とかしようという動きがつくられます。必要に応じて支援をしたり、罰を与えたり、「やってはいけない」という声が社会の中で広がるよう宣伝したりという動きです。そのことによって、たとえ法律（ルール）を守らない人がいても少数で抑えられ大きくならないようになり、罰（サンクション）が与えられることで、守っていない方が損をする状態がつくられます。そして、安心して暮らせる社会が実現するし、自分たちの「思い」を実現することも可能になるわけです。中学校でも同じことです。たとえば、ルールを守れない人が少数いても、自分たちの中でそれが「問題である」という声があがり、ルール違反が大きくなりたくないようになっている状態。また、ルール違反が少数いてもそれ以上にならず、大きくは安心して生活できる、困った状態にならないでいられるならば、それでいいわけです。そして、そういった安定した状態の中で、より生活がしやすいよう、ルールを変えていくことができます。

「ルールが完璧に守られる社会」は、現実的にはなかなか実現が難しいものです。でも、「いろいろあっても、安定している社会」ならば実現できます。そして、それは生徒集団がどのように取り組むかにかかっているのです。さらに、それができるかが「校則を変えられる学校にする」ための大きな条件になるわけです。今回の生徒総会では、「自分たちの課題を自分たちで検討する」ことができました。そして、うまくない状況、課題に対してどのように取り組むかが提案されました。これは、「校則を変えられる学校」にする大きな一歩になっていることがわかんと思います。さらに、提案された活動を実際に行うことができれば、さらに大きく進むこととなります。校則に関しても、生徒の声があがったものを検討し、共に変えていくことができるようになっていきます。学校として大きく一歩進みました。では、個々のクラス・学年はどうでしょうか。「授業がうるさくて困る」「誰かが、いじられていて嫌そうにしている」「うまく集団に、なじめない人がいる」などのことが、自分たちの中で課題となり検討されている状態でしょうか。先生から注意されるだけで、自分たちの課題となっていないという状態ではないでしょうか。

次のステップにぜひ進んでほしいと思っています。